

044-72-3179 FAX72-3190
832-0075 柳川市柳町3-1-2

小郡支局 0942-23-8620 FAX23-8621
〒838-0143 小郡市小坂井244-4-D101

写真の申し込みは
西日本新聞フォトサービス

092(711)5528

折り込み広告は
西日本新聞総合オリコミ久留米本社

0942(45)0750

広告の申し込みは
西日本新聞広告社
久留米営業部

0942(38)8651

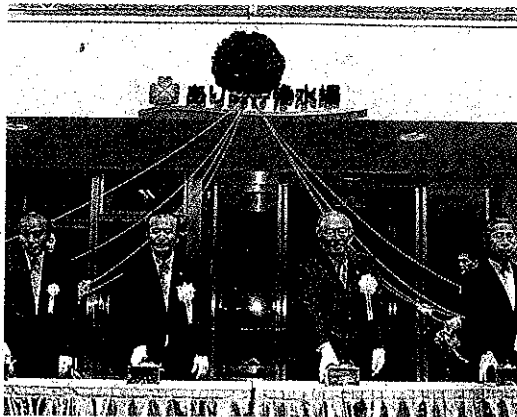
042-42-3230 FAX42-3231
-0031 筑後市山ノ井272-15
043-75-2805 FAX75-4477
-1321 うきは市吉井町521-1
043-23-2535 FAX23-2565
834-0031 八女市本町509-5

購読申し込み
0120-44-0120

配達の間い合わせ、
「はじめてのバースデー」申し込みは
エリアグループ筑後 0942(44)9555

ありあけ浄水場 供用開始

大牟田市で通水式



大牟田市と熊本県荒尾市内に水を供給する共同施設「ありあけ浄水場」(大牟田市日井新町)が1日、供用開始され、通水式が行われた。写真。

同浄水場は2009年に着工し今年3月完成。給事業費(15年間の維持管理費を含む)は約80億円。敷地面積は旧三井鉱山の社宅跡地約2万3千

平方メートルで、浄水施設と管理棟が整備されている。水源は熊本県の菊池川で、1日の浄水能力は2万6100立方メートル。大牟田市内には全5万7千世帯の半分程度をまかなう1万8600立方メートルの水が供給されるという。通水式で古賀道雄市長は「炭鉱のまちとしてのつながりがある両市が連携し、県境を超えて共同で整備した浄水場は全国で初めての取り組み。市民生活のライフラインとして市民に安心、安全な水を供給していきたい」とあいさつした。

が1日、2月に被災地を訪れた際の活動報告を同市内で行った。田中代表は「被災者からは『お金や物資を支援してもらえばいい』という声も聞いた。大震災から1年が過ぎた今、どういった支援活動が適切なのか、考えていきたい」と語った。

そのまめ会は、児童向けのイベントを企画する同市の青年団体出身者らで昨年3月の大震災後に結成。約20人がこれまでに4度、市民から募った支援物資を山元町に送り届けたほか、今年2月には3日間かけて宮城県から福島県まで約700キロを移動しながら、被災者や現地ボランティアと交流した。

被災地では「働く場がない。生きがいづくりとして内職を始めた人もいるが、売値先がない」という声も聞かれた。田中代表は「被災地では、被災者や現地ボランティアと交流した。被災地では、被災者や現地ボランティアと交流した。被災地では、被災者や現地ボランティアと交流した。」



撮影した田中代表が、被災地を訪れた際の活動報告を同市内で行った。

「死んでも心の中に生き続ける」



「さんぽ道」の周辺や裏山を白く彩るハクモクレン

春本番 白花、繚乱

花として親しまれていく。馬場睦店長は「例年より10日から1週間ほど開花が遅れた。見ごろは、ここ数日の間」と話している。

このほか、桜の一種「陽光」の濃いピンクの花が満開となり、名物のシタレザクラは七分咲きの状態という。さんぽ道0943(72)2144。

田主丸町の「さんぽ道」

久留米市田主丸町地徳のガーデンショップ「さんぽ道」でハクモクレン(別名ヒヤクレン)の花が盛りとなり、行楽客の目を引いている。

中国原産の落葉樹で、3〜4月に名前通りの純白の花を咲かせる。さんぽ道には、裏山の斜面を合わせ100本以上が植えられ、春本番を告げる。

の参道を、狩り装束の騎馬武者が勇壮に駆け抜けた。旧小倉藩の技を継承す

的が砕け散ると、約1500人の観衆から大きな拍手と歓声が湧き起こった。矢が命中したのは

同神社で縁起物として販売された。

この日は、好天に恵まれ、境内のあちこちで弁



横倉氏が日本医師会会長に

現職下し初当選、福岡県から初

大牟田医師会員

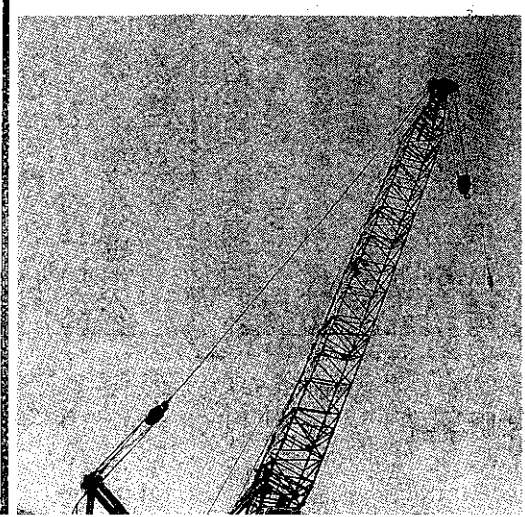


横倉氏

日本医師会の会長選挙が一日、東京都内で行われ、大牟田医師会会員で、みやま市高田町濃施のヨコクラ病院長理事長の横倉義武(67)が決選投票の結果、現職の原中勝征会長(71)を下し初当選。福岡県で初めて九州から三人目の横倉氏が百五十四票、原中氏は百三十七票、森氏が六十五票と、いずれも有効投票数の過半数に届かず、決選投票に持ち込まれた。結果は横倉氏百九十二票、原中氏百六十四票、森氏百六十四票だった。

(江頭 裕一)

横倉氏は平成四年から十六年まで大牟田医師会理事、二年から福岡県医師会理事、十四年に同医師会副会長、十八年から同医師会会長などを歴任。二十二年四月に日本医師会副会長に就任した。今回、日本医師会の基本理念の明確化と発信、「地域医療の充実と支援」などを重視する十項目の提言を掲げ、選挙を戦った。



辞を述べた。

日量2万6千ト給水

大牟田、荒尾新浄水場。全国初の県境超え整備。水道事業に新時代。

▽ △

三池港に新クレーン。国際コンテナ集荷に弾み。地域振興へ追い風。

▽ △ △

三池、日本の歴史あり。閉山十五年の今こそ。継承や掘り起こしへ。



ありあけ浄水場の完成を祝う両市長、管理者ら

ありあけ浄水場が通水開始

記念式典 全国初の取り組み花咲く

大牟田・荒尾共同施設「ありあけ浄水場」の通水記念式典が一日、大牟田市田井新町の現地で開催され、両市や国、福岡、熊本、両県などの関係者七十四人が出席。県境を超え複数の自治体で共同浄水場を整備する全国初の取り組みが花開いたことを喜び合った。

まず井手保大牟田市企業管理者が開式の辞。古賀道雄大牟田市長が「両市の水道事業に新たな一ページを加えることができ大きな喜びを感じる。前畑淳治荒尾市長は「広域的な取り組みが一つのモデルとして全国に普及するきっかけになれば」と式辞。松田雅幸大牟田市企業局長が事業経過報告。野田国義衆議院議員らが来賓祝辞を述べ、古賀誠、野田毅、福岡健一郎の各衆議院議員のメッセに村上管理者が開式の辞を述べた。

同浄水場は民間資金を使わず設計から施工・運営(維持・管理)まで民間事業者が行うDBO(デザイン・ビルド・オペレート)方式で委託。浄水処理は微粉活性炭処理とセラミック膜(膜ろ過)。熊本県の菊池川表流水を水源に両市内への日量二万六千トの給水を一日に開始した。

(菅嶋 公尚)

きょうの紙面

福岡県教職員などの人事異動 6、7面

三池炭鉱閉山日に合わせ近代化との出会いトーク 9面

荒尾市が人事異動 2面

みやま市の人事異動 3面

全国高校柔道選手権大会で大牟田がベスト8 8面